

発見！白井の仕事人 22

「よいおいしく、より喜ばれ、より安全に」をモットーに
有限会社かつらぎ

今回は、白井工業団地内にある仕出し弁当の有限会社「かつらぎ」を紹介します。

有限会社「かつらぎ」は、草刈夫婦が1977（昭和52）年、千葉県柏市（旧沼南町）で創業しました。

当時、近隣に飲食店が少なかったことから、仕出し弁当の製造・配達の事業を開拓し「よりおいしく、より喜ばれ、より安全に」をモットーに地域の企業

の皆さんから歓迎されて、利用者は次第に増加していきました。その後、1991（平成3）年には、白井工業団地内にライスセンターを設立し、2006

（平成18）年には、現在の敷地内に総合工場を完成させ、本社機能を市内に移しました。



有限会社かつらぎの店舗

現在、従業員約150人の体制で、約1万食の仕出し弁当を近隣に届けており、近年では、日本ハムファイターズスタウン鎌ケ谷の選手の間も食べている「スタッフ弁当」なども売っているとのことでした。

かつらぎでは、少子高齢化の到来を早くから予測してきた結果、女性従業員は全従業員の7割を超え、また60歳以上の従業員も、36割を占めており、生涯現役で働くことが可能な職場環

境が整っています。

従業員のニーズに応じて、子どもが学校にいる間だけ勤務できるよう4時間くらいの短時間勤務や2人1組での週3日勤務などのワークシェアリング、パート職員への賞与支給など、業界で初めて多様な働き方を採用

したことで、職場への定着意識に高い効果を得ているようです。



弁当製造の様子

このような取り組みが認められ、平成26年度高齢者雇用開発コンテストにおいて「高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰」で優秀賞を受賞しました。

草刈社長に話を伺うと「これまでやってこれたのは、地域の事業者の皆様から今日までご愛顧いただいたおかげです。これからも働きやすい職場環境の改善に取り組み、安心・安全な食の提供による一層の地域貢献を目指していきたいです」とのことでした。

これからも、地域においしい仕出し弁当を配達するかつらぎの活躍に注目です。

■ 商工振興課商工振興班 内線3243

発見！白井の仕事人 23

街開きと共に35年
アットホームなたまたままい
カフェ&レストラン「CIAO（チャオ）」

白井駅前商店街にあるカフェ&レストラン「CIAO（チャオ）」を紹介します。

昭和54年8月の千葉ニュータウンの街開きと共に、初代の店主が駅前の仮設のアーケード商店街（現在の駅前センター付近）にパン屋として

出店し、4年後に、現在の場所へ喫茶店「チャオ」として開店しました。



カフェ&レストラン「CIAO」

開店当時は、分譲マンションの建設作業員や購入予定の見学者などで、昼食や一休みにコーヒーなどを飲みに来るにぎわっていました。

「チャオ」というネーミングは、イタリア語ではあいさつ代わりの言葉として使われており、初代の店主夫婦が気軽に立ち寄れる、アットホームで、心のよりどころとなるようなカフェレストランになれるように」と名付けたそうです。

そのネーミングのとおり、中に入ると、昔を思い出すような、ゆとりのあるほっとする座席空間となっており、食事メニューは、和・洋・中の

豊富な品揃えです。ホテルでのシェフ経験を生かした店主の手作りの、できたてほやほやのオムライスなどが味わえます。

飲み物のバリエーションも豊富で、サイフォンで入れた本格的なコーヒーからフルーツジュースなどもあり、夜からは焼酎やサワー系のアルコール類も提供しています。



アットホームな店内

予約制で20人位までのパーティーも受け付けているそうです。昨年の3月から白井市商工会でスタートした「暮らしなんでもお助け隊」の登録店にもなり「特製弁当」などの注文も続いています。

2代目の岡田店主に話を伺うと「手作りのできるだけできたての味を皆さんに喜んでもらいたいと思い、作っています」とのことでした。

皆さんもアットホーム感満載の「チャオ」で「できたてほやほや感」を味わってみませんか。

■ 商工振興課商工振興班 内線3241

発見！白井の仕事人 24

技術力で信頼あふれる製品を
株式会社竹森工業

工業団地内にある巧みな溶接や金属製品加工技術でタンクやサイロ、各種機器装置を製造する(株)竹森工業を紹介します。

同社は、竹森現社長が若い頃溶接技術を学び、個人で請負職人として仕事をはじめ、昭和41年に江東区で製缶溶接業を行う「竹森組」として創業し、6年後に株式会社へ移行しました。

昭和52年に鎌ヶ谷市に住宅を兼ねた本社を建設、昭和56年に白井工場を建設し移転しました。現在は専務を筆頭に、各地からの優秀な従業員、職人など、100人が集う企業に成長しました。

社は「誠心（まことこのころ）」で、「大切なおお客様のご要望は、感謝の心で迅速に行動、常に知恵と技を活かし、生産性の向上と共存・共栄の精神を持ち、豊かな社会づくりに奉仕しましょう」を理念としています。

若手社員の育成やキャリア教育にも力を入れており、要請があれば、技術学校や大手企業からの研修生なども受け入れて技術指導をしているとのことでした。

日本の古き伝統行事の鍛冶屋の神様を祭る「輪（ふいご）祭り」を年1回開催し、親睦を図るため、家族も工場へ呼んで一緒にバーベキューをしたり、社員の仕事の様子を見て、社会勉強の一環にしているそうです。

最後に竹森社長に話を伺うと、今後は自社製品の開発など、新たな取り組みにチャレンジしていきたいとのことでした。

今後は(株)竹森工業の製品作りに注目していきます。

■ 商工振興課商工振興班 内線3243



株式会社竹森工業



サイロの製作風景

■ 商工振興課商工振興班 内線3243